

しやらくせえ。



真田広之

岩下志麻

葉月里緒菜

片岡鶴太郎

佐野史郎

永澤俊矢

坂東八十助

竹中直人

加藤治子

宮崎ますみ

新橋耐子

河原崎長一郎

津村鷹志

六平直政

中村芝雀

市川團蔵

中村富十郎

フランキー堺

写楽

Sharaku

企画総指揮 フランキー堺

製作総指揮 高丘季昭

製作 西友

TSUTAYA

堺総合企画

表現社

テレビ朝日

製作監修 古川吉彦

増田宗昭

黒井和男

監督 篠田正浩

原作・脚本 皆川博子(角川書店刊)

脚色 堺 正俊

片倉美登

篠田正浩

プロデューサー 原 正人

撮影 鈴木達夫

美術 浅葉克己

池谷仙克

音楽 武満 徹

衣裳 朝倉 摂

製作プロダクション 表現社

製作協力 ヘラルド・エース

撮影スタジオ みろくの里

デジタルSFX IMAGICA・D-SHOP

淳遊館 アタチ版画研究所

歌舞伎ロケ 琴平町・金丸座

歌舞伎協力 松竹株式会社 演劇部

特別協力 NTT/住友商事

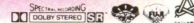
共同配給 松竹株式会社

松竹富士株式会社

フランキー堺 企画総指揮

篠田正浩 監督作品

松竹創業百年記念 協賛作品



若き芸術家たちの恋、野心、そして情熱……

十八世紀、江戸の人口は百万を数え、それまで京都・大阪中心の政治経済が江戸へ移行し、文化面でも獨創性を發揮しはじめていた。この時代、北斎、一九、馬琴ら若き芸術家が江戸の名プロデューサーと謳われた版元、葛屋重三郎のまわりにいた。その一人歌麿

は葛重の手腕により、天才絵師といわれるまでに育っていた。しかしその頃、江戸庶民文化の興隆に危機感を抱いた老中、松平定信は厳しい弾圧を加えようとしていた。葛重がその標的になりつつあることを察した歌麿は、言い寄ってきた別の版元へ鞍替えしてしまう。歌麿を失った痛手は葛重にとって大きかった。歌麿の寝返りを苦々しく思いながらも葛重は次なる絵師の掘り起

しに躍起になっていたが、その作業は四苦八苦の様を呈していた。万策尽きたが、葛重……。

江戸のミステリー、東洲斎写楽現わる

寛政六年五月、葛重の店で「東洲斎写楽」を名乗る絵師の奇妙な画風の役者絵が、突然売りに出され町の話題をさらっていた。一方、吉原でもこれま

で名の知れなかった絵師の浮世絵が、高価な黒雲母摺りて何十枚も売り出されたという噂で持ち切りだった。

歌麿の最大にして最強のライバル写楽

歌麿の豪華絢爛な浮世絵に対抗するかのごとく出現した写楽。その毒気のある画風に最も魅了されたのは、他ならぬ歌麿であった。

写 Sharaku 楽

寛政六年（二七九四）五月、東洲斎写楽——現わる

何処の誰かも知られぬまま、春の嵐のように突然現われた写楽。

なぜ、十ヶ月という短期間に一四〇数枚もの作品が発表できたのか？

なぜ、無名の絵師の作品が超豪華出版（大判大首絵・黒雲母摺り）だったのか？

なぜ、女々美人画を一枚も描かなかったのか？

なぜ、花形役者ばかりでなく、無名の役者まで描いたのか？

そして、何よりもたった十ヶ月で忽然と姿を消してしまった、その訳は？

写楽とは一体誰だったのか？

仕掛けたのは誰だ？

謎の絵師・写楽が現われてから二〇〇年、謎は依然としてナゾのまま……

そしてそこにもうひとり、幼い愛を感じ始めた女がいた。江戸のもうひとつの華吉原の花魁花里だ。花里は偶然知り合ったその男の中にある写楽の熱情を感じとっていた……。

歌麿は、真に嫉妬に燃えた――。

こいつは一体何者なのか？

どうしてこんな絵が描けるのか？

誰の仕業で突如現われたのか？

ワンダーランドEDOと『写楽』の仕掛人たち

『写楽』は写楽研究家でもあるフランク・堺が、映画化構想30年にして、企画の総指揮をとり自らも江戸出版界の鬼才葛屋重三郎を演じる。

監督は『瀬戸内少年野球団』『少年時代』の篠田正浩。

プロデューサーは、篠田と名コンビの

原正人（ヘラルド・エース）、音楽に武満徹、美術に浅葉克己、衣裳に朝倉摂が担当。

主演のとなりに真田広之。岩下志麻が大道芸人の首領おかに、花里に映画初出演の葉月里緒菜。また佐野史郎が天才絵師歌麿、ほかに片岡鶴太郎、坂東八十助、永澤俊矢らが、当時の実在の人物として出演、脇を固める。



重要文化財、四国・琴平の「金丸座」を借り切つてのシーンには人間国宝の中村富十郎をはじめ、中村芝雀、市川團蔵ら歌舞伎の名優が主演し、本物の迫力を存分に楽しませる。また最新のデジタル合成技術によって、江戸の町の絶景や日本橋、吉原界隈の雑踏などを魅らせることに成功。浮世絵の描きだす絢爛さをよりきわだたせている。

（上映時間：2時間18分）

'95年陽春2月4日(土)ロードショー！ ●特別ご鑑賞券絶賛発売中！ 一般¥1400/学生¥1200

丸の内ピカデリー2	03 (3201) 2881	東	劇	03 (3541) 2711	渋谷ジョイシネマ	03 (3462) 2539	新宿ジョイシネマ1	03 (3209) 6180	新宿東映パラス2	03 (3351) 3022
池袋日勝文化	03 (3571) 9437	横浜セントラル	045 (261) 2730	ららぽーとセントラル	0474 (31) 0088	柏	0471 (52) 0760	竹	0471 (52) 0760	●上映時間は新聞広告・情報誌等の案内欄をご覧ください。